

ふるさと土浦応援寄付 の活用について公表します

平成25年度も「土浦をふるさと」と思う多くの方から
応援をいただきました。いただいた寄付金について、
平成26年度予算の活用内容を公表します。

☎ 財政課(☎826-1111 内線2213)

ふるさと土浦応援寄付金の内容	平成25年度の寄付状況		平成26年度の寄付金の活用状況	
	件数	寄付金額	活用事業	活用額
●安心・安全戦略プラン 防犯・防災体制の構築や医療・福祉の充実	—	—	□タウウイルスワクチン接種費用助成事業	50,000円
●パワーアップ戦略プラン 市民との協働の仕組の構築や市役所力の強化	1	40,000円	土浦市シティプロモーション推進事業	40,000円
●暮らしの「質」向上戦略プラン 快適な環境、都市空間、にぎわいの創出や教育の充実	—	—	プラスチック製容器包装・生ごみ分別収集事業	130,000円
●オンリーワン戦略プラン 地域資源を生かした、土浦ならではのブランドの創出	1	30,000円	霞ヶ浦観光にぎわい事業	30,000円
●土浦市協働のまちづくり基金 市民協働のまちづくりの推進	7	1,300,000円	まちづくりファンド事業	1,300,000円
その他(医療関係)	1	50,000円	→安心・安全戦略プラン	—
記載なし	3	130,000円	→暮らしの「質」向上戦略プラン	—
合 計	13	1,550,000円		1,550,000円

◎寄付者の内訳：東京都3人、牛久市1人、つくば市5人、かすみがうら市1人、土浦市3人



「めざせ！筑波山地域ジオパーク」筑波山地域のジオサイトって どんなところ？ 第1回 土浦市

☎ 政策企画課(☎826-1111 内線2353)

筑波山地域ジオパーク推進協議会では、日本ジオパーク認定を目指しさまざまな活動を行っています。これから、筑波山地域6市のジオサイト(地質学的見どころ)を市民の皆さんにご紹介していきます。第1回は土浦市のジオサイトです。土浦市のジオサイトと言えばやっぱり霞ヶ浦！皆さんは霞ヶ浦がどうして今の形になったのか知っていますか？

☆ 霞ヶ浦は「海の底」だった!?

今から13～12万年前、地球は現在よりも暖かく、霞ヶ浦を含めた土浦市全域は、「古東京湾」という広大な湾の一部でした。この「古東京湾」は筑波山の麓まで広がっていたと考えられていますが、なぜそのようなことが分かるのでしょうか…？手がかりは上高津貝塚ふるさと歴史の広場にあります。ここでは縄文時代の貝塚とは別に、海の浅瀬に生息した貝の化石が展示しており、当時土浦が海であったことを教えてくれています。



☆ 霞ヶ浦の形を作った「大きな川」

今から3万年くらい前になると、それまで暖かかった地球の気候がどんどん寒くなり、寒冷化していきます。「古東京湾」だったこの地域も、海水面が低くなることで陸地になっていきました。同時にそこに大きな川が流れ、この川の激しい流れが地面を浸食して深い谷を作り、その谷はやがて霞ヶ浦の形に掘りくぼめられていきました。この川の正体は…？ヒントはこの川が運んできた石にあります。この石(礫)は日光周辺の地質と同じ安山岩です。日光を源として流れる大きな川といえば…？そう「鬼怒川」だったのです。いまは花火大会が開催され、春には桜の見物でにぎわう桜川の河道にはもともと「古鬼怒川」が流れていて、この「古鬼怒川」が霞ヶ浦の「器」を作ったのです。

おまけ 土浦のまちの「基盤」を作った「古鬼怒川」

霞ヶ浦の器を作った「古鬼怒川」は土浦のまちの「基盤」も作ってくれました。「古鬼怒川」が日光から運んできた「礫」は、土浦のまちの地下深くに地層となっており、「土浦礫層」と呼ばれています。土浦のまちは低地に広がっていますが、この礫層により、他の低地に比べて丈夫な地盤となっています。先の東日本大震災でも液状化の被害が少なかったのは、この礫層があったおかげです。



今回ご紹介した「霞ヶ浦を作ったのは、実は「鬼怒川」だった」という話。知らなかった方もいらっしゃるのではないのでしょうか。このように、私たちのまちが、私たちの住んでいるこの場所が、どのような地質・地形で、どのようにしてできたのか、それを知ることが、ジオパークの第一歩です。これから6市のジオサイトを紹介していきますので、次回をお楽しみに！

【図の出典／上：井内ほか1993、中・下：池田ほか1977】